



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年
No.1
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

薬物動態



事例

【事例の詳細】

同じ医療機関のA科とB科を定期受診中の患者に、A科よりボナロン経口ゼリー 35mg、B科よりオゼンピック皮下注0.5mgSDが処方されていた。今回、B科のオゼンピック皮下注0.5mgSDがリベルサス錠3mgへ変更になった。ボナロン経口ゼリー 35mgは消化管障害を防止するため多めの水で服用するが、リベルサス錠3mgは吸収率を上げるため少なめの水で服用する。両剤は胃内容物の影響を受けやすいため空腹時に服用する必要があるが、この2剤の同時服用は適切ではないと考えた薬剤師がB科の処方医へ疑義照会したところ、リベルサス錠3mgへの変更は中止になり、オゼンピック皮下注0.5mgSDが継続になった。

【推定される要因】

B科の処方医は他科が処方している薬剤について把握していなかったと考えられる。また、リベルサス錠3mgは服用条件によって吸収率の大きく変化する薬剤であると認識していなかった可能性がある。

【薬局での取り組み】

お薬手帳と薬剤服用歴の確認を徹底し、併用する薬剤の組み合わせに問題がないか検討する。また、この事例を薬剤師間で情報共有した。



その他の情報

ボナロン経口ゼリー 35mgの添付文書 2023年1月改訂（第3版）（一部抜粋）

7.用法及び用量に関連する注意

- 7.1 本剤は水のみで服用すること。水以外の飲み物、食物及び他の薬剤と一緒に服用すると、吸収を抑制するおそれがある。
- 7.2 食道及び局所への副作用の可能性を低下させるため、速やかに胃内へと到達させることが重要である。服用に際しては、以下の事項に注意すること。
 - ・起床してすぐにコップ1杯の水（約180mL）とともに服用すること。
 - ・本剤を服用後、少なくとも30分経ってからその日の最初の食事を摂り、食事を終えるまで横にならないこと。

リベルサス錠3mg/7mg/14mgの添付文書 2021年9月改訂（第2版）（一部抜粋）

7.用法及び用量に関連する注意

- 7.1 本剤の吸収は胃の内容物により低下することから、本剤は、1日のうちの最初の食事又は飲水の前に、空腹の状態のコップ約半分の水（約120mL以下）とともに1錠服用すること。また、服用時及び服用後少なくとも30分は、飲食及び他の薬剤の経口摂取を避けること。



事例のポイント

- 本事例は、薬物動態の観点から同時服用は望ましくない薬剤の組み合わせについて疑義照会を行った事例である。このようなケースでは、現行の処方監査支援システムにおいて注意喚起アラートが表示されないことが多く、薬剤師が自らの知見によって服用上の問題点に気付く必要がある。
- リベルサス錠とビスホスホネート製剤の併用について、処方医から患者に対して同時服用を避けるような指示がされていない場合は、処方医に対し服薬上の問題点を情報提供する必要がある。
- 本事業にはこの他にも、リベルサス錠3mg^{*}とアクトネル錠75mgの同時処方について疑義照会したところ、アクトネル錠75mgを服薬する日のみリベルサス錠3mgを休薬すると指示を受けた事例が報告されている。

^{*}リベルサス錠3mg/7mg/14mg 医薬品インタビューフォーム 2021年9月改訂（第4版）（一部抜粋）

本剤は1日1回投与の薬剤であること及びセマグルチドの消失半減期が長いことから、1回の投与忘れによるセマグルチドの曝露量への影響は小さく、一時的であると考えられる。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。